



北欧の概念を取り入れた家づくりで 数十年先も持続可能な住宅を実現する

【プロフィール】

鹿児島県出身。大学卒業後、輸入住宅販売会社に就職しインテリアについて学ぶ。住宅の設計施工会社を経て、2011年2月に株式会社フーセットを設立。福岡県を中心に、住み継がれる北欧住宅の建築を展開している。

株式会社フーセット 代表取締役 中西 麻美氏

魔法瓶のような 高气密高断熱住宅を

家づくりにおいて高气密高断熱住宅が注目を集める中、福岡市早良区高取の株式会社フーセットが提案するのは北欧・デンマークをモデルとした住宅です。建物の断熱・気密性を向上させ、最低限の熱源で保温・保冷する“魔法瓶断熱”の住宅設計。冷暖房効率を意識しているため、扉などの仕切りを多用せずに開放的な間取りが実現可能です。それは将来のリフォームを見据え、ライフスタイルの変化に合わせて住み継ぐ家づくりにつながっています。

代表取締役の中西麻美さんは「実際にデンマークで学んだ住宅の環境性能は日本よりもはるかに水準が高く、

1970年代のオイルショックの頃から、その取組みが始まっていたことに衝撃を受けました。そこで出会ったのが、エネルギーの使用量が少なくても快適に暮らせるパッシブハウス。様々な機器類を設置する前に、まずエネルギーの消費が少ないハコを準備する必要があると感じました。建物自体が自然と省エネにつながれば、普通に暮らしながらも環境負荷を減らすことができる」と話します。

「またデンマークには、物を本質的に選ぶ文化があり、古くなった住宅でもリフォームすることで価値を高めています。加えて欧米の住宅は一般的に経年で価値が上がっていくため、リノベーションすることも投資というイメージ。一方日本では約20年で住宅の資産価

値はゼロになるとも言われ、簡単に安く建てられる家が増えたこともあり、維持管理ではなく壊すという選択になってしまう。結果的に資源やエネルギーを無駄にするケースが多いと感じています」と中西さん。

さらにフーセットは素材選びも特徴的です。時間が経っても美しさが保たれるもの、住む人の手で維持管理がしやすいものを選定。

「無垢の床は専用のソープでクリーニングしたり、傷だらけになっても表面を削ったりすることで再生可能です。塗装仕上げの壁は新築時にお客様と一緒にペイントし、壁塗りのいろはをお伝えしています。その経験は心身ともにしっかりと刻まれ、愛着へとつながっていく。そうすることで365日家を見ているお客



1 フーセットが手がける住宅は“日本人らしい北欧住宅”。デザインやスタイルだけを寄せるのではなく、暮らしやすさを提案している

3 中西さんは北欧住宅の概念や建材、建築手法などについて、デนมールを訪れ実際に学び、知識と技術の蓄積を続けている

2 高気密高断熱住宅であるため間仕切りやドアが少なく、開放感があるフーセットの住宅。ライフスタイルの変化に合わせてリノベーションの可能性も考慮

4 「自分たちで壁の補修ができるとわかれば、壁を汚したり傷つけたりすることを過剰に心配して子どもを叱ることなく、心にゆとりができる」と中西さん

様が小さな異変にいち早く気づけるようになります。さらに自身で手を加えることができれば、自然と住まいは長寿命化するはずです」。

暮らしの提案で競合と差別化

インテリアの道から住宅業界に挑戦した中西さん。机上での学びと現場とのギャップに戸惑うなど、「自分で選んだ道。歯を食いしばって経験を積んでいくしかなかった」と下積み時代を振り返ります。しかしその経験の差を逆手にとった提案が、競合との差別化につながっているといます。

「スタンダードな建築提案ができなかった分、暮らし方の提案に注力してきたのが強みになりました。例えば、よくある日本の住宅では庭があれば大きな掃き出し窓を採用しがちです。しかし必要性のない大きな窓は家具の配置を制限し、模様替えをしにくくさせます。また断熱性が低ければ大きな熱損失部位になる。フーセットではデนมールのように窓をインテリアと捉え、ライフスタイルに照らし合わせながら緻密に計算された位置に適切なサ

イズのものを配置するなど、暮らしの自由度が高い住まいを提案しています」と自信をのぞかせます。

創業から約9年。手がけた住宅は福岡県を中心に50棟を超えるなど、フーセットの北欧住宅は広がりを見せています。

持続可能な社会を実現する住宅へ

フーセットの住宅の根底にあるのは、持続可能な循環型社会の実現。国際社会でも目標とされている持続可能な開発目標・SDGs (Sustainable Development Goals) に寄与できる住宅としても、注目を集めています。

「日本でもしっかりと建材が使われた古い家もあり、壊さずにリフォームして店舗などに再生される事例を多数見かけます。また昔は自分たちで障子を張り替えたり壁を補修したりという姿があったのも事実で、循環型社会の一役を担っていました。しかし現在は利便性が優先されるがために、手をかけながら長く使えるものに触れる機会は減り、自分たちで家を守ろうという意識が低くなってしまった」と中西さんは言います。

「教育と言えばおこがましいのですが、持続可能な社会を実現するためにも、今後は循環型社会の体験の場として住まいの維持管理の楽しさを伝えるワークショップなどを開催していきたいと考えています。いまは実際にフーセットで住宅を建てた方にしか伝えられていませんが、大人も子どもも自分たちで“手を加えられる”家を知ること、社会の意識は変わっていくはず」。

住む人が暮らしやすく、循環型社会の実現を目指すフーセットの住宅が、SDGsに向けても新たな活躍を見せようとしています。



株式会社フーセット

〒814-0011 福岡市早良区高取2-15-3
TEL 092-831-5225
<https://www.huset.jp/>